

2022年 新年のご挨拶

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

昨年末は、新型コロナウイルス感染症のオミクロン株について、日本国内でも市中感染とみられる事例が増えつつある中、継続した地道な感染拡大防止策が求められ、ご家族や少人数のご友人と「静かな年末年始」をお過ごしになられたり、業務都合でお休みをスライドされたりと、各々のお立場で「令和4年」を迎えられたことと思います。

改めまして、日頃より様々な労働の活動に対し、ご理解ご協力賜りました皆様に御礼申し上げます。

本年もどうぞ宜しくお願い致します。

さて、昨年（2021年）を表す漢字は「金」とされました。「東京2020」において史上最多58個のメダル獲得となり、その内、金メダルは27個でした。某市長の「最大限の愛情表現」に愕然とする事もありましたが、オリパラ選手の活躍には改めて敬意を表したいと思います。

昨年度の労組活動におきましては、コロナ禍が継続する中、オンライン会議が定着し、上部組織や外部のウェビナーも多く開催され、役員の資質向上・組織力の底上げにつなげることができたと感じております。また、コロナ禍の当初は延期・中止とせざるを得なかったレクリエーションについても、オンラインを活用した企画（抽選会やオンライン飲み会補助等）に取り組まれた支部もあり、本部においても「みかん狩り」「いちご狩り」を拡大し、コロナ禍でも利用可能な施設利用に対する補助「リフレッシュサポート・ミニ」を開始し好評でした。今年度も「リフレッシュサポート」とともに継続致しますので、感染対策の上ご利用いただければと思います。

2022年は「虎年」、十干十二支（じっかんじゅうにし）では「壬寅（みずのえ・とら）」となります。「壬」は「妊」に通じることから「エネルギーを蓄える」という意味を持ち、十干で9番目であることから「次の周期の準備期間」、陰陽五行説では水の陽にあたり「厳冬」や「沈滞」を表すとされています。また、「寅」は蟻（みみず）に通じていて、作物の実りを助けるミミズが土の中を動くイメージから「新しく動き始めた段階」という意味を持つとされています。したがって、「壬寅」は“厳しい冬を乗り越え、新しいステージに向かう準備段階にあたる年”と言われています。（諸説あり）

今年は、首都圏から東海圏へのリソース強化、岐阜・三重での新体制構築などNDSグループのさらなる飛躍に向けた会社施策が展開される一方、社員・組合員にとっては“厳しい選択”を迫られる場面もあろうかと思えます。労組としましては、本部・支部・分会・部会が連携して職場意見を集約する中、会社側に対し早期の情報提供、丁寧な職場説明を要請してきました。引き続き、直面する様々な課題に対し取り組んで参ります。今こそNDS労組に集う仲間の総力を結集し、「すべての働く仲間が安全で安心して働ける魅力ある職場づくり」の実現につなげていきましょう！

最後になりますが、組合員ならびにご家族の皆様方が本年も幸多き一年を過ごされますよう心よりお祈り致しますとともに、旧年中と変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、新年を迎えてのご挨拶とさせていただきます。

以上

2022年 1月 吉日

通建連合NDS労働組合
執行委員長 松本 佳典